

# タムシバ・キタコブシ

小林 浩二

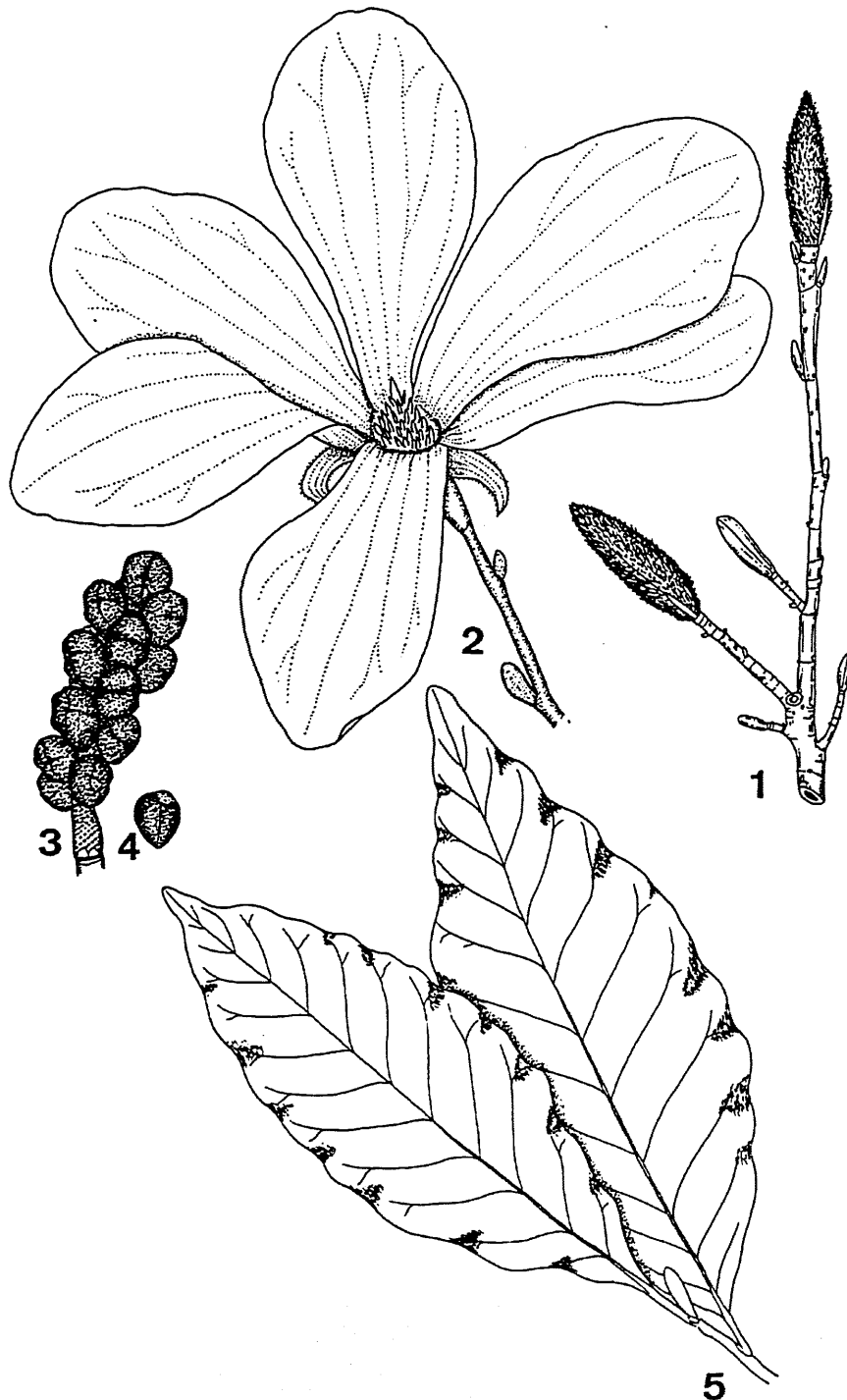
## タムシバ (もくれん科)

日本海側の山地に生える落葉小高木で、県内では、海拔20m - 1820mと広範囲に分布する。キタコブシよりも樹高が低く、開花時に花の下に新葉がなく、葉が皮針形であるこ

とから区別できる。また、生育地は尾根筋などでキタコブシより高所に多く見られる。

採集地：北蒲原郡笹神村出湯秋取山 250m 1983. 5. 6

図1：冬芽×0.8 (2月弥彦山)、図2：花×0.8、図3：果袋×0.8 (9月)、図4：種子×0.8 図5：葉×0.8 (9月)



**キタコブシ (もくれん科)**

本州中部以北の日本海側の山地に生える落葉高木で、県内では、海拔730mまで分布するが、一般に200m以下の川や谷沿いに多い。早春、つぼみがふくらみ、開花前には必ずつぼみの先が北側に曲がる（方向指標植物の一種）。花の色は白く、その基部は淡紅色を帯び、径10cmくらいで、花の下に

一個の小葉片をつけるのが特徴の一つでタムシバと区別がつく。葉は菱形で短い柄があり、基部はくさび形、先端は細まって突出し、鈍形。枝を折ると芳香がある。果実が裂けると白い糸で赤い種子がぶら下がる。

採集地：北蒲原郡豊浦町滝沢 30m 1983. 5. 5

図1：冬芽×1.1 (2月弥彦山)、 図2：花×1.6、 図3：果袋×0.7 (9月)、 図4：葉×0.7 (9月)

